

武田流金子司家史料目録

高阿部能久
橋部慎一
朗久

「武田流金子司家史料」は、鎌倉市在住の武田流弓馬道第三十七代司家・金子家敏氏のもとに伝えられている弓馬故実の史料群である。現在行われている流鏑馬神事は、おもに武田流と小笠原流に大別されるが、そのうちの武田流の故実は、若狭武田氏の武田信直（吸松斎清芸）から近世初頭に熊本細川家の家臣・竹原惟成（少左衛門、墨齋玄可）に伝えられた後、熊本藩士の竹原家やその門人に代々相承された（熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編『永青文庫叢書 細川家文書 故実・武芸編』二〇一四年、吉川弘文館）。明治初頭には、竹原惟路の高弟で旧熊本藩士・井上平太に伝授された。本史料群の表紙等に多数見られる「居元」とは、井上平太の号とみられる。さらに井上平太より金子有鄰が相承し、有鄰が大正六年（一九一七）に鎌倉市扇ヶ谷に移住したことにより、鎌倉に武田流故実が伝えられたという。なお、熊本の竹原家にも相承され、現在は鎌倉と熊本に武田流が伝承されている。

武田流金子司家史料（史料名は所蔵者の希望に基づいて命名）は、竹原家から鎌倉に伝わった武田流の弓馬故実書であるが、その他に竹原家の主家細川家に伝わった、熊本大学附属図書館寄託・永青文庫所蔵『細川家文書』所収の故実書や、竹原家に残された、熊本県立図書館寄託『竹原陽次郎家文書』がある。これらは、いずれも元は同じく熊本藩に

伝わった武田流故実書であり、一部に重複するものもあるが、相互に補完しあう部分もある。たとえば、『犬追物類鏡』のように広く流布したものは、三つの史料群にそれぞれ別の写本が残る。金子司家の『流鏑馬』（目録一四五）と細川家の『流鏑馬射法伝授』（目録82126）は同内容の別写本である。いっぽうで、金子司家の『扶桑見聞誌記』（目録二一三）と、竹原家の『流鏑馬射法記』（目録四三）には、細川重賢の文庫「披雲閣」の蔵書印があり、一旦は細川家所蔵となっていたことがわかる。また、慶長十五年に武田信直から竹原惟成に伝授された旨の奥書を持つ故実書は、三つの史料群に分かれて残されている。したがって、三史料群を一体のものとして考察することにより、武田流故実の形成過程の全貌が明らかになるものと思われる。

三つの史料群を比較してみると、金子家の史料群には、目録に明らかのように、「菅原正房」もしくは「志水」なる人物が相承に関わった書物が多いことが注目される。この人物は、江戸後期・文化年間ごろの熊本藩士であった志水正房（通称は隼太。蘭陵と号す）に該当する（共同研究者である林晃弘氏のご教示による）。志水正房は細川家に犬追物の故実書を献上しており（『細川家文書』目録106.2.1.10）、故実書の収集・整備に尽くした人物と思われる。逆に、細川家文書の故実書群は、

故実家としても知られる細川幽齋（藤孝）自身の手によって集積されたものに加えて、竹原家を始めとする家中から献上されたものによって形成されたと考えられる。また、母衣などの具足に関する故実書が多く残されている点は、他の史料群と大きく異なる特色である。

金子家の史料には、志水のほかにも、多種多様な蔵書印・伝領奥書が見られ、蔵書形成の過程が非常に複雑であることがわかる。

いっぽう、知行宛行状など藩士としての竹原家に関する史料や、門人の誓詞などは、専ら『竹原陽次郎家文書』に残されている。

次に、本史料目録の作成経緯について触れておくと、発端は二〇一六年六月に、ご所蔵者の金子家敏氏から史料の保存・公開について高橋が相談を受けたことに遡る。その後高橋は、鎌倉市扇ガ谷の金子家（「平安居」と号される）で史料の現物を拝見してその重要性を認識し、当時鎌倉国宝館に勤務していた阿部に協力を依頼して、二〇一七年から現状確認と目録作成に着手した。さらに、二〇一九年度には東京大学史料編纂所の一般共同研究として本格的な調査・研究をおこない、本稿の目録を完成することができた。共同研究における調査・目録作成には、阿部・高橋のほか、林晃弘・大澤泉（以上は共同研究員）・松吉大樹が参加した。また、ご所蔵者の金子家敏氏、および調査会場をご提供くださった鎌倉浄光明寺住職・大三輪龍哉師には、多大なるご協力をいただいた。あらためて深く感謝申し上げます。

続いて目録の凡例等について述べたい。本稿の史料目録は、金子家に残されている史料のうち、冊子を中心とする部分の目録である。このほか、巻物や現物資料などが伝わっているが、それらについては今後調査の予定であり、本目録には未収録である。

史料を所蔵する金子家では、すでにある程度史料を整理して目録を作成されていた。史料群全体の簡略な目録は、金子有鄰著『日本の伝統馬

術―馬上武芸篇―』（一九七五年、日貿出版社）の末尾に「金子家所蔵古文獻等一覧」として記載されているが、これとは別に、冊子を中心に通し番号を付し基本的な情報を記載した目録を作成されていたのである。そこで、筆者らは原秩序尊重の立場から、金子家作成の目録を土台として、情報を補訂する形で目録を完成させた。したがって、目録の番号は原目録の番号をそのまま生かしており、調査の時点で現物を確認できなかった場合は欠番としてある。また、「故実袋」と称される武具などの雛形（小型の模型）や、近代の刊本等も含まれているが、敢えて目録から除くことはしなかった。ただし、法量については省略している。

なお、本史料群全体の性格や武田流故実の形成過程など、本格的な研究成果については、二〇二〇年度も継続している共同研究の成果も踏まえて、別の機会に述べることとしたい。

【付記】本稿は、東京大学史料編纂所共同利用・共同研究拠点における一般共同研究（二〇一九年度）「武田流弓馬故実書の形成過程に関する史料学的研究」（代表阿部能久）の成果の一部である。

番号	小番号	書名	法量・縦×横 (cm)	員数	紙数	備考(著述・書写・伝領等に関する記述、編者注記)
1		犬追物類鏡(四)	27.0×19.3	1冊	29	【奥書】延享元年(下部欠損)
2		目録	26.0×19.3	1冊	3	
3		會香之日録	26.5×19.9	1冊	15	【奥書】延文元(丙申)正月日、武田治部少輔信頼集之
4		直日御魂賤手引 序	26.5×19.7	1冊	23	
5		式羽集(武田伝)	25.5×18.5	1冊	10	【奥書】(伊東)祐敬撰
6		纒口伝集	26.8×19.6	1冊	6	
7		十如院弓馬記	23.6×18.1	1冊	8	【奥書】右条々十如院(英甫永雄)連々取集置弓馬記也、一覽之次聊加奥書畢、慶長十年三月二十三日、(細川)幽斎玄旨 御在判、進竹原市藏畢、右之分無相違之間、加判形候誌、正保三年三月十一日、墨斎(竹原)玄可、入江惣十郎殿 進覽、右者明治三十年二月宇土高月氏之藏本ヲ買受ク、大正九年三月竹原先生文庫ニ納ム、井上平太
8		武器蠡(れい) 測集	26.5×19.2	1冊	20	【奥書】守中子(伊東祐敬)【首題下】[朱印]「菅原正房」
9		馬術相伝聞書	26.5×19.5	1冊	6	【奥書】武田吸松斎清芸、志水[朱印]「菅原正房」
10		武家故実考 幽斎様御説 弓馬故実記	26.5×19.5	1冊	17	【奥書】寛永二年三月十二日、(竹原)玄可惟成[花押影]、竹原清太夫殿、進之、竹原(志水・「菅原正房」)の朱印を墨抹
11		鎧直垂口伝 全	26.7×19.1	1冊	4	【表紙】井上氏(「玄術館」という朱書に重書す)
12		鞭手綱口伝之事	26.4×19.4	1冊	8	【奥書】寛永十二年三月十五日、竹原惟成判、明和九年十一月日、安田景敬朱判[花押影]
13		磨鏡 全	25.4×19.0	1冊	37	【奥書】寛元元年二月五日、(多賀)豊後守高忠判、(小笠原)播磨守元長判
14		鎧色談(伊勢貞丈)	26.8×19.5	1冊	24	【奥書】明和八年辛卯秋七月十四日、扈從隊士伊勢平藏貞丈著、印
15		挾物之書 全	27.2×19.3	1冊	8	【奥書】応永廿四、八月十五日、小笠原備前守持長、同民部少輔
16		弓袋囊目袋之式 全	25.6×18.8	1冊	7	【首題下】[朱印]「志水之印」「菅原正房」
17		故実結形 下 旗幕具足	25.1×18.2	1冊	12	
18		〈伊勢〉源家八領鎧考 全	25.8×18.4	1冊	35	【奥書】安永五年(丙申)十一月朔日、伊勢平藏貞丈書【首題下】[朱印]「志水之印」「菅原正房」
19		鎧威之記(竹原記)	26.4×19.4	1冊	11	【中表紙右下】志水【首題下】[朱印]「菅原正房」
20		甲冑之巻(竹原記)	26.2×19.1	1冊	17	
21		鎧直垂袴巻 秘	26.5×19.5	1冊	4	【奥書】慶長十五年二月吉日、武田(吸松斎)清芸判、竹原少左衛門尉殿、進之【第1丁右下】[朱印]「菅原正房」
22		甲冑伝授之書	26.5×19.5	1冊	13	
23		甲冑伝授 上	26.2×19.4	1冊	13	【奥書】慶長十六(辛亥)南呂一日、志水[朱印]「菅原正房」
24		甲冑之伝	26.0×19.2	1冊	28	【奥書】慶長十六年南呂吉日、武田信秀【第1丁右下】[朱印]「齊藤」「??」之印
25		鞭手綱之次第	26.5×19.2	1冊	37	
26		弓馬故実当流聞書 下	26.8×19.5	1冊	54	
27		故実記	26.5×19.3	1冊	10	
28		法量物并袋日記 全(武田氏小笠原氏)	27.4×19.5	1冊	12	
29		草鹿丸物射法次第	26.6×18.2	1冊	7	【奥書】寛正五年十一月日、(多賀)豊後守高忠判、一校了【表紙】居控【題箋下】[朱印]「菅原正房」【第1丁右下】[朱印]「志水之印」「菅原正房」
30		辻の之作法(武田氏)	26.8×19.7	1冊	8	【中表紙】控原本、居元【奥書】[朱印]「亀田」
31		草鹿起源書 全	28.6×20.9	1冊	9	
32		射学問答(竹原記)	25.1×17.0	1冊	23	
33		手綱秘書 全	26.7×18.3	1冊	14	

番号	小番号	書名	法量・縦×横 (cm)	員数	紙数	備考(著述・書写・伝領等に関する記述・編者注記)
34		鷹請取渡之事	26.2×19.6	1冊	18	
35		鷹之書 上	26.0×19.0	1冊	32	
36		神代之弓矢并羽之事	26.5×19.5	1冊	23	【奥書】右之条々当家於諸書集考究一冊者也、乍勿論弓矢之儀者家之肝要深所禁外覽也、吾輩莫忽云爾、慶長十五三月九日、武田三十郎入道吸松齋清芸〔花押影〕、竹原庄左衛門殿
37		檢見矢誘之次第	26.3×19.3	1冊	28	【奥書】志水藏本
38		箭拵之書 上	27.3×19.4	1冊	17	【首題】〔朱印〕「印文不明」【奥書】小笠原
39		橘家鳴弦卷(極秘書)	27.1×19.4	1冊	58	【首題下】玉木正英謹書【奥書】玉木正英謹書
40		今川了俊大双紙	25.7×18.8	1冊	39	【中表紙右下】〔朱印〕「志水之印」〔菅原正房】【奥書】安永九年庚子三月廿日、伊勢平藏貞丈録
41		礼御蠡側集(武田氏)	26.8×19.7	1冊	25	【奥書】右家之一流少々相談之令申者也、慶長十五十月日、武田吸松齋清芸〔花押影〕、竹原庄左衛門尉殿
42		弓矢拵之覚書	26.2×19.9	1冊	9	【奥書】伊東治郎左衛門(祐敬)殿、元禄十三年
43		弓掛根元之事	26.6×19.9	1冊	19	【首題下】〔朱印〕「菅原正房」
44		〈弓袋〉武田小笠原伝書	25.7×19.0	1冊	14	【奥書】文安三年六月十三日、沙弥浄元(小笠原持長)判、寛正五年四月廿七日、(小笠原)備前守持清判、文明十三年正月十一日、(小笠原)刑部少輔元清判
45		本朝軍器考(卷二 三)	27.2×18.0	1冊	65	
46		箴名所兼調度懸名所(武田吸松齋 四)	26.1×18.2	1冊	7	【奥書】慶長十五年二月吉日、武田吸松齋清芸
47		矢箴書 二	27.1×19.6	1冊	25	【奥書】(武田)三左衛門尉(源)信(秀)
48		箴之相伝 一	26.0×19.5	1冊	9	【首題下】〔朱印〕「高本文庫」〔柏家藏書】【奥書】右之一冊者武器肝要之秘伝也、堅可被禁外見也、武田三左衛門尉源信秀
49		箴拵覚(五 武田家竹原)	26.7×19.1	1冊	9	【首題下】原本控 居元【奥書】右之趣今度御箴被仰付指上候ニ付、各為御心得覚書ニ仕申候、以上之儀ハ一偏ニハ無御座候、箴通義御座候、以上、元禄十六年十二月吉日、竹原勘十郎、魚住丹之丞殿、伊藤又右衛門殿、戸嶋又兵衛殿
50		箴之秘伝書(七 武田信秀)	26.6×19.0	1冊	10	【首題下】原本控、居元【奥書】右之一冊者武器之肝要秘伝之儀也、堅可被禁外覽者也、武田三左衛門尉源信秀判
51		狩之作法聞書(武田家 一)	25.2×20.0	1冊	30	【奥書】右之卷冊者至而雖秘書類之依御懇望免書写訖、堅可被禁外見者也、享保四年二月吉辰、伊東次郎左衛門祐敬〔花押影〕、永広曾平殿、進覽之
52		弓法諸拔書(竹原)	26.4×19.5	1冊	11	【首題下】〔朱印〕「菅原正房」
53		靈社起請文(竹原記)	26.2×19.2	1冊	4	【中表紙右下】志水
54		実檢并軍陣作法聞書	26.7×20.0	1冊	16	【奥書】右之卷冊者当□□秘伝也、堅守之可被禁外覽者也、正保四年九月七日、竹原少左衛門入道玄可
55		黄石公旗之伝	26.3×19.3	1冊	12	【首題下】〔朱印〕「菅原正房」
56		源家吉例簡伝矢合之征矢之図為朝鎌図贊(武田信直)	26.0×18.2	1冊	6	
57		故実軍陣之卷(武田伝)	25.9×18.7	1冊	47	
58		辻毛 上中悪(十卷ノ一)	27.4×19.6	1冊	7	【第1丁右下】〔朱印〕「篤敬之章」
59		條々聞書(一名宗五大双紙上下合冊)	27.2×19.4	1冊	69	【奥書】右一帖許伝写訖、安永二年癸巳九月十八日、伊勢平藏貞丈〔花押影〕、田村節藏殿
60		犬追物場所地祭(竹原玄弥)	26.7×20.0	1冊	14	【奥書】寛政四(壬子)歳正月廿七日
61		名目集(凶礼 二)	26.1×19.2	1冊	21	【奥書】此一冊他見堅御用捨、仍如件、(肥州)風月堂
62		幽齋公御覚書(全)	24.0×18.9	1冊	28	【奥書】文化庚午年五月日記之、雜賀正雄〔花押〕
63		犬追物之式序例	26.2×19.2	1冊	18	【首題下】〔朱印〕「志房之印」〔子辰】【奥書】延享四年丁卯八月廿八日、伊勢兵庫平貞丈記【裏表紙】志水
64		幕之伝授	26.3×19.2	1冊	14	
65		幕之伝授書 口伝 武田伝	25.4×19.2	1冊	14	

番号	小番号	書名	分量・縦×横 (cm)	員数	紙数	備考(著述・書写・伝領等に関する記述、編者注記)
66		諸式考	25.3×18.2	1冊	38	
67		親伝授之書(武田氏)	26.5×19.2	1冊	8	【首題上】[朱印]「温故而知新」【奥書】右母衣之伝授至而雖秘法深依御懇望令相伝訖、尤可被禁外覽者矣、慶長十六曆八月吉日、竹原玄可惟成判、[朱印]「亀田」「正容之印」
68		故実之記	25.4×19.1	1冊	57	【奥書】右条々十如院(英甫永雄)連々被集置故実紀也、一覽之次聊加奥書畢、慶長十年三月廿三日、(細川)幽斎玄旨、遣竹原市藏畢
69		珍説要秘祿(上中下)	27.4×19.6	1冊	28	
70		幕之仕立并出入之事(竹原記 武田吸松齋相伝)	26.0×19.1	1冊	7	【奥書】幕仕立様其外条々自武田吸松齋伝受之通依御執心不残令相伝畢、極秘甚深之間堅可被禁外覽者也、正保三年七月吉日、墨斎竹原玄可、入江惣十郎殿、進覽之候
71		母衣之事	26.3×19.3	1冊	9	【首題下】(朱印)「菅原正房」
72		親伝授之書	26.3×19.3	1冊	9	【首題下】[朱印]「高木文庫」「柏家藏書」【奥書】右母衣之伝授至而雖為秘法、深依懇望令相伝訖、尤可被禁外覽者矣、慶長十六曆八月吉日、竹原玄可惟成判
73		親之書	26.6×19.7	1冊	8	
74		鞍鏡秘事伝 曲尺判印口伝	28.1×18.4	1冊	22	【首題下】[朱印]「篤敬之章」【奥書】右依為秘中雖不他伝書御執心他異故相伝仕畢、不可有他見者也、明曆二年申三月、判、明和八卯七月吉日写、朝田嘉大夫
75		重藤拵之事 一人百手の時日記 百手射義日記之覚 口宣的	26.5×19.7	1冊	5	【奥書】天文十四年四月十一日、泰山王二十一社
76		幕之書	26.5×19.7	1冊	8	【第1丁右下】[朱印]「高木文庫」「柏家藏書」【奥書】幕仕立様其外条々自武田吸松齋伝受之通依御執心不残令相伝畢、極秘甚深之間堅可被禁外覽者也、正保三年七月吉日、墨斎竹原玄可、入江惣十郎殿、進覽候
77	1	幕目口伝之卷 全	26.2×19.8	1冊	98	【首題下】玉木正英謹記【奥書】右幕目之伝自神代之正伝而橋家嫡々相伝之極秘也、橋以貞判、[朱印]「大宮司印」【裏表紙】嘉永七甲寅曆四月下旬、於阿蘇館騰写是、藤原正貫[花押]
77	2	行騰之書	25.6×19.0	1冊	4	
78		当家諸礼之一(祝言之卷)武田家	26.2×19.5	1冊	14	【首題下】[朱印]「高木文庫」「柏家藏書」
79		太刀拵作法目録	26.3×19.4	1冊	23	【首題下】[朱印]「高木文庫」「柏家藏書」
80		鎧直垂之式	25.1×18.2	1冊	9	
81		太刀拵作法	26.0×19.1	1冊	21	【奥書】永禄十一年十月良辰、從五位下一色式部少輔入道一遊齋源藤長[花押影]
82		本朝刀劍略記	26.2×19.0	1冊	31	【首題下】[朱印]「志水之印」「菅原正房」(朱線にて抹消)【奥書】[朱印]「印文不明」「印文不明」「宮部家藏」、享保四己亥歲初冬下濬、壺井義知跋、[朱印]「印文不明」「宮部家藏」「宮部」
83		太刀拵作法目録	26.0×19.1	1冊	23	【奥書】永禄十一年辰十月良辰、從五位下一色式部少輔入道一遊齋源藤長[花押影]
84		弓矢之事	26.2×19.2	1冊	17	
85		神代弓矢之事	26.2×19.5	1冊	3	【奥書】于時永正十二年三月七日、一雲在判
86		具足之卷(武田家)	26.5×19.7	1冊	13	
87		犬追物類鏡 二	27.0×19.0	1冊	92	
88		矢拵開書(武田相伝)	27.0×19.5	1冊	7	
89		楊弓射礼蓬矢抄	25.0×19.3	1冊	27	【奥書】于時宝曆六(丙子)三月末八日写之、松岡為得
90		小的射法之日記(全)	26.3×19.3	1冊	17	【首題上】[朱印]「温故而知新」【奥書】于時永廿七(庚子)十一月四日、此一卷家之記録最上極口伝之条目大概改書置、尚以口伝深シ、納箱底可識外見者也、(小笠原)民部少輔持長判、[朱印]「亀田」「正容之印」
91		大的之式	26.3×18.8	1冊	50	

番号	小番号	書名	法量・縦×横 (cm)	員数	紙数	備考(著述・書写・伝領等に関する記述、編者注記)
92		太刀弓馬 地	27.0×19.5	1冊	56	
93		弓掛根元之事	26.2×19.2	1冊	15	
94		三の四六三八の挟物(武田、八の挟物ハ馬上ナリ)	26.2×19.2	1冊	15	【表紙】控本、居元【首題上】[朱印]「温故而知新」【奥書】[朱印]「亀田」「正容之印」
95		小的私記(全)	26.5×20.0	1冊	16	【表紙】控本、居元
96		獨弓鳴弦 聞書	27.0×19.5	1冊	28	
97		金子有鄰雜記	27.0×19.5	1冊	—	(近代)
98		弓馬伝拔書(武田伝)	26.5×19.0	1冊	78	
99		弓馬之故実(武田家)	26.5×19.3	1冊	32	
100		弓馬辞令集	26.4×19.3	1冊	6	【奥書】右弓馬古実記拔書者 幽斎尊翁御自筆の被加御書、竹原氏墨斎玄可仁被置通也、兩條共以秘事之中之秘事也、他見他言制禁而可秘、寛文五(乙巳)稔長月中浣日、山崎半弥尉実弘在判
101		弓馬之聞書(武田家、竹原)	26.0×19.3	1冊	41	【奥書】慶安五年二月吉辰、竹原金左衛門(惟英)、入江惣十郎殿、進献之
102		矢櫃五図(下河辺庄司へ調進)	27.0×19.5	1冊	4	
103		弓之聞書(武田家、竹原)	25.7×19.0	1冊	18	【奥書】右弓之聞書数年老父へ被遂御執心、奇特ニ書物被極立候、予可加奥書之旨辞退千万ニ候へ共、難道問ニ付聊注之進之候、堅可被禁外見者也、慶安五年二月吉辰、竹原金左衛門、入江惣十郎殿、進献之
104		表相寸	26.5×19.7	1冊	11	【首題下】[朱印]「高木文庫」「柏家藏書」
105		表相并寸法卷(三斎公御説)	25.7×19.0	1冊	9	
106		調度懸之事	26.3×19.5	1冊	5	【表紙】原本控、居元
107		歩立(全)	26.5×20.0	1冊	16	
108		射形第三并奥儀之拔書	24.0×18.0	1冊	4	【奥書】日置弥左衛門、安松左近尉、同新次郎、弓削甚左衛門、同弥六郎、前竹林如成、石塔竹林貞次、尾林与次左衛門尉、西垣七助、浦上瀬兵衛尉、豊岡角左衛門尉、神戸喜右衛門尉、岩佐善助、糸川兵左衛門尉、右此書進之候、伝授之次第、右之通有之候
109		神前之的(小笠原備前守)	25.5×19.0	1冊	5	【奥書】此一巻者小笠原長時公信州御没落以後、予此道尽心緒於御御傳授令書写畢
110		射御拾遺集序(小笠原)	26.7×18.5	1冊	20	【奥書】于時応永廿七(庚子)年十一月四日、此一巻家口伝最極余目也、深納箱底可誠外見、少序概雖書之、尚以不聊爾可秘之者而已、民部少輔持長、行歳三十七、文亀元(辛酉)年卯月廿五日、沙弥長元、右一冊玉名郡本業小佐井平三郎所持伝也、然依非急務之要書而贈於志方翁(今櫛橋氏、右馬允)云々、元本者古写本卷軸也、然字様亦可愛、実文亀元年所写歟、故一字一点不加私意謄写畢最以可為証本者也、天保四年九月、木原楯臣録、在判、天保十三年(辛丑)年三月以楯臣本写之、木野武連判
111		射法本紀略説	26.4×19.5	1冊	20	【中表紙】平瀬光雄著【第1丁下】[朱印]「井上模印」「綱菴」【奥書】天明八年戊申春正月既望、平瀬光雄撰
112		上下萬民嚆次第	25.6×18.7	1冊	25	【奥書】右條々者於当家令秘書所也、曩方竹馬抄百々條多年依種々懇望令相伝畢、努々不可有他見者也、享祿二年五月日、小笠原大膳大夫長時
113		式職之馬具	26.2×19.2	1冊	4	【首題下】[朱印]「高木文庫」「柏家藏書」【奥書】右之条々雖為秘本依御所望免書写畢、堅可被禁外覽者也、正保四年五月日、武田三左衛門尉光尚【裏表紙】[花押]
114		觀之伝授	26.8×19.2	1冊	16	【表紙】控原本ナリ【奥書】右条々当道之大事雖為代々口授、予及老衰念之儀多焉、今数十巻於編于一巻隱置者也、家之外堅不可有外見者也、可秘々々、慶長十五年十一月、武田三十郎入道吸松齋清芸、竹原庄左衛門墨斎玄可、竹原勘十郎惟秋在判、伊東治郎左衛門殿、進之候
115		うつば册結之事(小笠原宗賢)	25.5×18.2	1冊	8	【奥書】右小笠原宗賢判形之令書写訖、可為証本者也

番号	小番号	書名	法量・縦×横 (cm)	員数	紙数	備考(著述・書写・伝領等に関する記述、編者注記)
116		装束古例(武田家)	25.3×18.2	1冊	36	
117		武家故実序小解(武田氏)	26.8×19.5	1冊	10	【奥書】于時寛政元酉夏ノ五月十六日暁江府ニテ写之畢、内藤
118		武田家着用装束以下之次第	24.3×17.5	1冊	20	
119		御弓初聞書(小笠原備前守)	26.6×19.2	1冊	15	【奥書】右者小笠原持長以判形之本写之、脇ニ付候も奥ニ書加候哉、持長別本ニ被書立与別人本之内此本ニ無之所被書加者也
120		射形二之卷	24.1×18.2	1冊	9	【奥書】日置流、前竹林坊如成、石塔竹林貞次、尾林与次右衛門、慶長十七年卯月廿七日、右此書進之候、序卷委細令奥書候条不具堅有他見聞敷也、寛政十年九月十五日、藤本角弥[朱印]「正福」正福[花押]
121		武田家弓矢細工上之書	24.0×17.9	1冊	12	
122		武田流矢細工書	25.8×19.2	1冊	11	【奥書】右之一卷者礼家別而秘書ニ而候云々、予色々令懇望改相伝候畢、努々不可有他見之也、永正三年八月、上原豊前守高家
123		奉射礼作法記録	26.0×19.2	1冊	40	【表紙】居、控、原本【首題上】[朱印]「温故而知新」【奥書】[朱印]「亀田」「正容之印」
124		矢拵聞書	26.4×19.8	1冊	10	【首題下】[朱印]「高木文庫」「柏家藏書」
125		矢細工口伝聞書	25.8×19.1	1冊	18	【奥書】永正七年六月廿一日、法橋祐豊聞書訖、明空在判
126		箆書	26.8×18.7	1冊	34	【奥書】明和二年乙酉十月廿四日、伊勢平藏貞丈記[花押影]
127		じんどうの事(小笠原伝)	26.0×18.9	1冊	12	【奥書】小笠原伝、細工方聞書、永正十三年八月、上原豊前守高家
128		弓矢製法(下)	26.5×19.5	1冊	8	【奥書】重礼、(伊東)祐敬撰之
129		矢披之事	26.4×19.5	1冊	8	
130		射礼私記并疑解	26.8×19.2	1冊	17	【奥書】兵庫頭植房
131		行躰之事(武田氏伝)	26.2×19.3	1冊	6	【首題下】[朱印]「菅原正房」「志水之印」
132		武家故実六ヶ問答	26.1×19.5	1冊	12	【奥書】享保十二曆孟春十二日、(伊東)祐敬
133		礼家花押集	25.8×19.0	1冊	11	
134		幕相伝之大事切紙(小解)	26.2×19.5	1冊	9	【奥書】武田信秀謹識、文化九(壬申)年六月三日謹写之、宇佐公知
135		書札看独集(幽齋公)	25.5×18.8	1冊	54	【奥書】寛永十八年六月吉日、竹原少左衛門
136		折紙形	26.0×18.5	1冊	13	
		折紙之書	26.4×19.8	1冊	13	【首題下】[朱印]「高木文庫」「柏家藏書」
137		祝言(巻)	27.0×19.3	1冊	23	
138		二物故実 口伝	27.0×19.5	1冊	18	
139		年中御祝之次第	26.3×19.3	1冊	11	
140		士礼淵源(武田家 祐敬)	26.3×19.7	1冊	6	【首題下】[朱印]「高木文庫」「柏家藏書」【奥書】時正徳四曆仲夏望、肥之後州隈本之散士、伊東信齋祐敬述、朱印
141		年中四季故実文章 下	27.2×19.2	1冊	18	【首題】[朱印]「印文不明」
142		騎射諸具図解 全	26.0×19.2	1冊	22	
143		銚子提子飾様之事	26.5×19.5	1冊	5	
144		流鏑馬之式 一	26.1×19.2	1冊	10	【首題上】[朱印]「印文不明」【首題下】「井上」「志水之印」「菅原正房」【奥書】此一冊者能記其要而足儀、全体一覽之序加奥書畢、紫海翁(竹原惟親)、寛政二庚戌秋七月、竹原東弥(惟雪)殿
145		流鏑馬(十二の礼射中ノ一 射法)	26.9×19.3	1冊	21	【奥書】右者当家嫡々之秘伝堅以所禁外見也、慶長十五年仲春日、武田吸松齋信直
146		流鏑馬射法 三番	26.9×19.7	1冊	14	【首題下】[朱印]「井上」【奥書】右者当家嫡々之秘伝堅以所禁外見也、慶長十五年仲春日、武田吸松齋信直
147		狩作法之書(三)	26.2×19.2	1冊	26	【奥書】時宝永乙亥三月記焉、竹原惟秋述、高月藏本[朱印]「印文不明」

番号	小番号	書名	法量・縦×横 (cm)	員数	紙数	備考(著述・書写・伝領等に関する記述、編者注記)
148		要馬私覽集(全)	27.0×19.6	1冊	8	【奥書】此一冊者多年終心ニ付、文化八年未二月朔日、御遣シ被成候、志水〔朱印〕「菅原正房」
149		礼法 馬之巻(武田伝)	27.3×19.7	1冊	27	
150		犬射書(肥後 竹原写)	24.6×17.5	1冊	25	【奥書】此書犬追物馬場法量門式略と表題アリ、我翁にうつすもの也、志水
151		狩作法聞書(二)	26.2×19.1	1冊	36	【奥書】右之巻冊者至而雖為秘書類之仍御懇望免書写訖、堅可被禁外見者也、享保四年二月吉辰、伊東次郎左衛門(祐敬)[花押影]、永広曾平殿、進覽之、右兩翰本書不載之、謄写之序令合策者也、爾時元文五年臘月廿七写、[朱印]「亀田」「正容之印」
152		小笠原家秘伝之書目録(竹原控)	26.0×19.2	1冊	37	【奥書】右之上下二冊(武田)從吸松齋令恩借写置之處、依御懇望借進之候、勿論予文盲之上不知実説字之書誤落写等可有之也、可被俟後之君子、任御所望加判了、慶安三二月廿四日、(竹原)墨齋玄可、入江惣十郎殿まいる
153		遇得隨筆附考抜(中)	23.5×16.2	1冊	43	哺風亭藏
154		実檢(肴組七枚目)	26.2×19.6	1冊	15	【奥書】右之一冊從竹原少左衛門入道玄可老所受相伝之、不貽之令伝授、猶至口伝書付附与之、全以妄不可漏者也、寛文元年五月望日、入江甚兵衛、入江惣右衛門殿、進之、右之書物兄入江玄兵衛方々相伝候、則貴様江相伝申候畢、延宝九年正月廿九日、入江彦之允春宗判、井上兵助殿、進之候
155		礼家百二十ヶ條(小解 五部ノ内三)	26.7×19.0	1冊	14	
156		神道伝書(竹原記)	27.7×20.5	1冊	8	
157		六道士会録	27.5×19.2	1冊	6	
158		橘家十種行事	26.2×19.5	1冊	10	
159		橘家祭法	26.3×19.5	1冊	18	
160		婚礼之聞書	26.2×19.5	1冊	14	【首題下】〔朱印〕「高本文庫」「柏家藏書」
161		笠懸日記(全)	26.1×18.0	1冊	50	【首題下】〔朱印〕「長谷文庫」【奥書】右於此一巻者前(小笠原)備前守入道浄元令口伝也、無授他人、仍難盡筆紙者也、可秘々々、明応式年十一月七日、清連在判
162		笠懸聞書(小笠原持長奥書)全	26.1×17.9	1冊	35	【首題下】〔朱印〕「長谷文庫」【奥書】右之一軸者於当家最定秘説也、雖然為失念具記置之也、雖為親子兄弟妄不可伝授、撰器用之族可令相統之、全不可有類本、仍不可有他見、前人号被遺誡者也、永享八年五月日、前備前守持長在判、小笠原備前守殿、右此一巻遠笠懸之次第於当家殊成難為秘書、於末代愚昧之子孫荒々為可存之具記之也、假令雖為親子兄弟射術不堪之輩者不可相統之深密、可秘之者也、仍如件、弘治式年八月日、(武田)信豊御判
163		笠掛全記(一卷 二卷)	26.2×18.0	1冊	61	【首題下】〔朱印〕「長谷文庫」
164		笠掛全記(伊勢氏三止)	26.3×18.1	1冊	62	【首題下】〔朱印〕「長谷文庫」【奥書】宝曆八年戊寅夏六月廿一日、伊勢平藏貞丈〔花押影]、長瀬真幸所藏
165		犬笠掛相伝之記録 全(笠懸式、遠笠懸式、流鏑馬射法、遠笠懸騎射記、流鏑馬式、犬追物檢見矢沙汰)	25.5×18.8	1冊	84	右此一巻愚老年月稽古相伝之方所記置也、然を家教江令進畢、天正九年六月日、細川兵部大輔入道玄旨〔花押影]、右者元禄十三年八月七日於江府御筆を以奉写書者也、於此一巻者(小笠原)前備前入道浄元江口伝たり、他人にさつくる事なかれ、仍紙墨につくしかたきものなり、明応二年十一月七日、播磨入道沙弥宗長在判、文龜二年十二月十三日書之、右の本は細川中務少輔入道孝元入道休齋字也、君より伝たる書を長岡氏にあるをうつし畢、天明七年丁未四月四日、齋藤高寿權之介〔花押]、能々思して聊莫竟外見而已、文明五年十一月、從五位下中原(多賀)豊後守高忠〔花押影]、寛正四年正月吉辰、從五位下中原豊後守高忠在判、天明四年甲辰四月二十二日、齋藤高寿藏本、齋藤高広藏本〔朱印〕「印文不明」
166		笠掛全記 一(武田信豊)	26.2×18.0	1冊	55	【首題下】〔朱印〕「長谷文庫」【奥書】弘治式年八月吉旦、(武田)信豊御判

番号	小番号	書名	法量・縦×横 (cm)	員数	紙数	備考(著述・書写・伝領等に関する記述、編者注記)
167		弓馬之秘法	25.9×19.1	1冊	10	
168		正月作法武田家伊勢故実〈合冊〉	25.2×18.9	1冊	28	【奥書】正保三年七月三日、(竹原)墨斎玄可在判、入江総十郎殿、進覽之
169		胡并几帳	26.7×19.2	1冊	6	【中表紙】原本控、居元
170		草鹿之射法	26.4×19.1	1冊	14	
171		笠懸伝授之書〈小笠原刑部〉	26.7×19.2	1冊	29	【首題下】[朱印]「井上平太」「志水之印」「菅原正房」「印文不明」【奥書】享祿四年七月廿八日、小笠原刑部少輔光清〔花押影〕
172		狩之作法 名目集 四	25.9×18.8	1冊	41	
173		竹原殿方故実間目六拔書	25.2×19.5	1冊	73	
174		軍陣之卷 武田家	26.2×19.3	1冊	25	
175		年中行事之礼	26.0×19.0	1冊	22	
176		遠笠懸之射法	26.3×19.4	1冊	15	【奥書】永祿九年六月日、二位法印大藏卿(細川)幽斎玄旨源藤孝御書判
177		〈肥後〉椎田犬追物日記	24.8×18.8	1冊	25	【首題下】陪臣中山昌礼著、居元云、有吉家ノ臣、通称市之進、肥後〔黒印〕「岡本?」【奥書】于時天明六年十二月廿五日
178		遠笠懸次第〈武田三左衛門〉	26.3×19.3	1冊	8	【首題上】[朱印]「印文不明」【首題下】[朱印]「志水之印」「菅原正房」【奥書】慶長十一年三月吉日、武田三左衛門尉光尚判
179		遠笠懸〈幽斎様御自筆〉	26.2×19.0	1冊	17	【原表紙】志水【首題上】[朱印]「印文不明」【首題下】[朱印]「志水之印」「菅原正房」【奥書】天正九年六月日、細川兵部太輔入道玄旨〔花押影〕
180		騎射式〈竹原〉	26.8×18.9	1冊	17	【奥書】文化十一年十一月、竹原九左衛門(惟敏)
181		馬鞍置様之事	26.5×19.7	1冊	6	【奥書】[朱印]「亀田正容之印」
182		弓馬故実條々記三斎様御集 全	26.1×19.4	1冊	25	【原表紙】志水【奥書】(細川)忠興〔花押影〕
183		故実拾遺	26.0×19.3	1冊	18	
184		軍用記〈乾 自一至三〉	26.0×18.9	1冊	64	【首題下】[朱印]「松園」「内柴源正直藏書之印」【奥書】宝暦十一年辛巳十月六日、伊勢平藏貞丈書
185		かりくらの巻	25.9×19.3	1冊	3	【奥書】右ハ文明式年庚寅の三月十一日と有之、古書を求めて写之畢
186		弓馬大本〈上下〉	25.6×18.7	1冊	73	【奥書】(細川)忠興〔花押影〕
187		犬追物記〈全〉	23.5×15.4	1冊	93	【第1丁右下】[朱印]「?」書院【奥書】犬追物騎射秘抄全部三冊、以源副祝所藏之書謄写之、一枚畢、本書橋方基伝與之、元文五年十一月一日、季楼当〔朱印〕「?」当
188		犬追物聞書抄〈下 土金水〉	25.6×19.5	1冊	38	【首題下】弘治二年六月吉辰、伊勢下総入道(法名宗五)(貞頼)ノ自筆写
189	1	犬追物類集拔書 貳	26.5×19.7	1冊	23	
189	2	犬追物類集拔書 三	26.7×19.7	1冊	26	
190		熊野	—	1冊	—	(謄本、明治版本)
191		〈金春流太鼓〉独鼓拾五番集	—	1冊	—	(昭和刊本)
192		順徳天皇を仰ぎ奉る	—	1冊	—	(以下四冊合綴、昭和刊本)
		後鳥羽天皇を偲び奉る	—	1冊	—	
		日野俊基卿御事績に就て	—	1冊	—	
		〈和氣公御伝記〉二葉乃楓	—	1冊	—	
193		李草〈貞丈自筆〉	23.3×15.9	1冊	39	【第1丁右下】[朱印]「源有鄰」【奥書】[朱印]「八藤龍秀」、安永七年戊戌十一月七日、伊勢平藏貞丈書
194		胸明集〈諸種〉竹原記	26.4×19.1	1冊	10	
195		矢披之伝授〈先師奥書有〉	26.9×19.6	1冊	9	【奥書】正保三年八月十六日、竹原玄可惟成〔花押影〕
196		里見八犬伝〈第四輯〉	—	1冊	—	(明治版本)
197	1	日置流竹林派小目録 全	27.7×20.3	1冊	9	【奥書】安政五(午)年十一月、佐久間啓次郎、平盛孝〔花押〕[朱印]「印文不明」、笠原政太郎殿

番号	小番号	書名	法量・縦×横 (cm)	員数	紙数	備考(著述・書写・伝領等に関する記述・編者注記)
197	2	辻 的	29.2×20.5	1冊	14	【奥書】右此書雖為秘事令伝受者也、吉田大内蔵助重氏在判、太田一の斎吉重在判
198	1	俊 寛	—	1冊	—	(謄本、明治版本)
198	2	鉢 木	—	1冊	—	(謄本、明治版本)
199		故実條々記(武田伝)	27.0×19.3	1冊	48	【奥書】慶長三年初春書之、竹原市蔵惟成判
200		故実記(弓馬)	26.0×19.2	1冊	16	【奥書】右高家之日記秘本也、能々可有秘藏者也、竹原玄可惟成判、文化六年十月吉祥日
201		年中行事	27.2×19.3	1冊	24	【奥書】進藤宇右衛門
202		武家故実考 武田伝一	26.3×19.2	1冊	14	【奥書】慶長上章困敦梅月上弦、若州中郡熊河之産、武田三左衛門尉源光尚在判
203		兵法実検卷(小笠原大膳太夫)	25.3×18.1	1冊	16	【奥書】小笠原大膳大夫長時、同右近大夫貞慶
204		故実古今通用記	25.8×19.0	1冊	21	【中表紙】志水[朱印]「菅原正房」【奥書】右之条々老父貞慶相伝之通以正本書写置畢、雖為直子惣領一人之外不免之候、末代之為形見具記置者也、慶中八月二日、小笠原兵部大輔秀政、武田三左衛門信尚
205		故実秘伝問答(武田伝)	26.6×19.0	1冊	11	
206		故実問答(二)	25.7×19.1	1冊	12	
207		後藤祐乘系図 一・二	27.2×19.0	1冊	64	【第1丁右上】[朱印]「印文不明」【奥書】[朱印]「前高之印」、寛永八年未十月吉辰、山城国住人後藤弥兵衛入道黒乗書判朱印、奥五左衛門殿参
208		諸家前太平記卷之二	25.9×18.0	1冊	20	(近世版本)【表紙ラベル】「武道文庫」【首題下】[朱印]「大洲文庫」
209		恵林寺武田流展目録	—	1冊	—	(金子機軒有鄰、昭和52年)
210		御伝来流鎧馬記録	17.3×7.8	1冊	95	(以下二冊合綴)
		肥後藩四番砲隊記録	—	1冊	—	(明治2年)
211		馬腹中之図 全	25.0×19.0	1冊	23	【第1丁右下】[朱印]「朝常堂之印」【第1丁右上】[朱印]「至徳震道」
212		二天一流兵法 五倫之書	24.5×16.4	1冊	35	(以下四冊合綴)
		二天記	24.0×16.3	1冊	46	
		宮本武蔵小伝	24.4×17.0	1冊	11	
		二天一流刀法	26.2×19.3	1冊	20	【奥書】寛文六(丙午)中秋中旬之日、寺尾求馬助
213		扶桑見聞誌記 十二	27.0×18.3	1冊	40	(以下二冊合綴)【第1丁右上】[朱印]「披雲閣」【表紙見返】森(磨り消し)
		扶桑見聞誌記 十二ノ下	27.0×18.2	1冊	44	【第1丁右上】[朱印]「披雲閣」【表紙見返】森
214		女房衣襲方書 武田家	26.1×19.2	1冊	9	
215		難波流鞠之書 全	26.3×19.0	1冊	27	【奥書】飛鳥井二楽(雅康)、在判
216		水練微妙卷	26.2×19.5	1冊	44	【奥書】延宝六年七月上日、山口久左衛門龍門、山口源太兵衛尉龍次焉、伊東儀右衛門殿
217		小的射法之記録	26.2×19.2	1冊	26	【表紙】控、元書【奥書】享保三年?月上旬、伊東次郎左衛門祐敬
218		犬追物類鏡 三	26.9×19.2	1冊	60	
219		矢捌 五	25.9×18.6	1冊	46	
220		犬追物類鏡卷四 後附	26.4×18.1	1冊	44	【首題下】[朱印]「木塾文庫」【奥書】延享元年(甲子)九月七日、伊勢兵庫平貞丈在判、天保といふとの二とせ陸月のはしめつかたより筆をおこして弥生の初の七日といふ日写しおわる、木野鎧之亮隆邦、改十郎、武連[花押][朱印]「木塾隆邦」「印文不明」
221		解龍流馬體相法正詞	26.7×19.5	1冊	39	【表紙】肥後藩久保活則
222		弓馬之故実(武田家 玄可)	26.0×19.0	1冊	46	【奥書】慶長三、二月廿四日、(竹原)墨齋玄可
223		笠懸相伝(武田氏)	26.8×19.0	1冊	23	【首題上】[朱印]「印文不明」【首題下】[朱印]「志水之印」「菅原正房」
224		馬書備考(完)	26.5×19.5	1冊	52	

番号	小番号	書名	法量・縦×横 (cm)	頁数	紙数	備考(著述・書写・伝領等に関する記述、編者注記)
225		肥後惟田犬追物日記并序	24.4×18.1	1冊	23	【首題下】陪臣中山昌礼著、居元云、有吉家ノ臣、通称市之進
226		細川幽斎聞書全集	25.5×18.0	1冊	72	(版本)【奥書】青木勝兵衛板【第1丁右上】[朱印]「上妻家藏」
227		射学外乃物 卷第壹	125.8× 18.3	1冊	38	
228		大秘極弓法籠之卷	26.8×19.2	1冊	10	【表紙】控原本ナリ【奥書】慶長十五年十一月日、武田三十郎入道吸松斎清芸、竹原庄左衛門入道墨斎玄可、竹原勘十郎惟秋判、伊藤治郎左衛門(祐敬)殿、進之候
229		鞍書	26.6×19.5	1冊	8	【奥書】志水[朱印]「菅原正房」
230		犬追物記 全	26.0×19.0	1冊	91	【奥書】右の一冊ハ小笠原備前家に相伝の日記を写畢、尤永正年中の人の手跡なり、寛政四年春二月望、斎藤権之助高寿[花押]、天明四年甲辰閏正月二日、斎藤高寿藏本
231		京城略図 六	—	1枚	—	
232		大阪城図	—	1枚	—	
233		金子有鄰願文	—	3通	—	(昭和)
234	1	故実袋 十二番ノ二 空穂之図 受緒掛緒	—	包紙1+ 6点	—	【包紙】志水[朱印]「菅原正房」
234	2	故実袋 三十三番 釣的結形	—	包紙1+ 1点	—	【包紙】志水[朱印]「菅原正房」
234	3	故実袋 四十七番 天平革 正平革 勝武革	—	包紙1+ 4点	—	【包紙】志水[朱印]「菅原正房」
【欠】 235						
236		故実袋 二十七番 三つ物小手之緒組様	—	包紙+5 点	—	【包紙】志水[朱印]「菅原正房」
237	1	故実袋 十四番 伊多恵比羅異類	—	包紙+1 点	—	【包紙】志水[朱印]「菅原正房」
237	2	故実袋 三十四番 陣羽織小形三	—	包紙+2 点	—	【包紙】志水[朱印]「菅原正房」
237	3	故実袋 八十三番 流鎗馬笠懸 小手緒三ツ 射笠八幡座及四方座	—	包紙+3 点	—	【包紙】志水[朱印]「菅原正房」
238	1	細川家中旗章	—	1冊	—	(近代)
238	2	籠形	—	1点	—	
238	3	武田・小笠原馬引手結	—	2点	—	
238	4	犬追物図	—	1枚	—	
239		集古十種 兵器 弓矢一	35.3×24.6	1冊	37	
240		故実叢書 輿車図考附図 甲帖	—	1帖	—	(近代)
241		故実叢書 豊楽院図	—	1枚	—	(近代)
242		故実叢書 中古京師内外地圖	—	1枚	—	(近代)
243		故実叢書 内裡図付中和院	—	1枚	—	(近代)
244		故実叢書 神祇官図 真言院図 太政官図 武徳殿図	—	1枚	—	(近代)
245		故実叢書 八省院図	—	1枚	—	(近代)
246		故実叢書 輿車図考附図 乙帖 (断簡)	—	1枚	—	(近代)
247		故実叢書 輿車図考附図 乙帖	—	1帖	—	(近代)
248		故実叢書 冠帽國會	—	1帖	—	(近代)
249		故実叢書 鑑着用次第	—	1帖	—	(近代)
250		集古十種 兵器 弓矢二	35.3×24.6	1冊	31	
251		貞丈雜記 14上	26.0×18.1	1冊	37	(以下六冊合綴)

番号	小番号	書名	法量・縦×横 (cm)	員数	紙数	備考(著述・書写・伝領等に関する記述、編者注記)
		貞丈雑記 14 下	26.0×18.1	1 冊	30	
		貞丈雑記 15 上	26.0×18.1	1 冊	31	
		貞丈雑記 15 下	26.0×18.1	1 冊	22	
		貞丈雑記 16 上	26.0×18.1	1 冊	32	
		貞丈雑記 16 下	26.0×18.1	1 冊	28	
252		武学拾粹	25.0×17.6	1 冊	計測不能	(乱丁破損著し)
253		犬追物類鏡 卷二	26.4×18.5	1 冊	110	【首題下】[朱印]「木柱文庫」(墨抹)
254		犬追物日記	27.0×19.6	1 冊	16	
255		武田氏相伝図書目録 故実袋番号順	—	1 冊	—	(以下四冊合綴)(近代)
		東京国府津櫻狩	—	1 冊	—	(近代)
		興重馬事大會名簿	—	1 冊	—	(近代)
		建国十周年奉祝馬事大會	—	1 冊	—	(近代)
256		武邊晰聞書 一二	24.0×17.2	1 冊	54	(以下五冊合綴)【奥書】[朱印]「鎌田之印」
		武邊晰聞書 三四	24.0×17.2	1 冊	64	【奥書】[朱印]「鎌田之印」
		武邊晰聞書 五六	24.0×17.2	1 冊	59	【奥書】[朱印]「鎌田之印」
		武邊晰聞書 七八	24.0×17.2	1 冊	51	【奥書】[朱印]「鎌田之印」
		武邊晰聞書 九大尾	24.0×17.2	1 冊	43	【奥書】[朱印]「鎌田之印」
257		当家百个條(全)	27.0×18.3	1 冊	39	
258		小笠原流簾目録	27.3×19.1	1 冊	10	
259	1	婚礼方一卷	27.0×19.4	1 冊	25	
259	2	女中簾方の書	27.0×19.4	1 冊	9	
259	3	女中方簾の書	27.0×19.4	1 冊	24	
259	4	天兒婢子の書	27.0×19.4	1 冊	22	
259	5	納採用意の書	27.0×19.4	1 冊	30	
260		小笠原秘書 懐孕着帯之書	27.2×19.1	1 冊	15	(以下二冊合綴)
		婚礼温故新集	27.0×19.4	1 冊	22	
261		書 式	27.1×19.2	1 冊	75	
262		犬追物図説(全)	26.2×20.0	1 冊	79	【奥書】延享四年(丁卯)七月晦日、平(伊勢)貞丈識、天保六年八月江戸龍ノ口於南御物見写之、谷隠、井上
263		神祇道服忌令	26.0×19.0	1 冊	10	【奥書】右之服忌令、吉田二位殿御本ヲ申請遂書写候了、奥萩原殿之御説者、從三斎尊翁被成御尋々々、予御使被仰付候段留置之写也、雖為御秘密、任御執心免書写畢、慶長三年臘月吉辰、(竹原)墨斎玄可、入江惣十郎殿參
264		名目集 婚礼 十二	26.3×19.0	1 冊	27	
265		武家東帯装束開書 上	25.3×19.0	1 冊	10	
266		年中四季故実文章 上	27.2×19.1	1 冊	20	【奥書】小笠原
267		簾の次第	27.1×19.1	1 冊	32	【首題】[朱印]「印文不明」
268		首途法式 全	27.3×19.2	1 冊	11	【首題】[朱印]「印文不明」【奥書】天文十五仲秋吉辰、(小笠原)大膳大夫長時判、大学殿、右之一卷者大学殿ニ被進之時於御制令書写者、他家不可有類本者也、岩村意休
269		小笠原五節句傍 全	27.2×19.1	1 冊	13	【首題】[朱印]「印文不明」
270		表祭小記 全	26.0×19.4	1 冊	58	【奥書】元禄辛未(四年)季夏之朔、浅見安正謹識
271		諸礼記(伊勢貞順相伝、竹原雜成書)	26.2×19.5	1 冊	35	【奥書】慶安三年初春、竹原市藏維成
272		書札法式(小笠原)	27.6×19.2	1 冊	13	【第1丁右上】[朱印]「印文不明」【奥書】小笠原大膳大夫長時

番号	小番号	書名	法量・縦×横 (cm)	員数	紙数	備考(著述・書写・伝領等に関する記述、編者注記)
273		武田家礼一統名目集 序	26.0×19.0	1冊	10	【奥書】享保二十年乙卯上無月、竹原惟庸、武田三左衛門尉信秀、志水〔朱印〕「菅原正房」
274		大礼観兵式	—	1冊	—	(昭和3年刊本)
275		論語	25.6×18.4	1冊	35	(版本)【首題下】斎藤新之助写本、〔朱印〕「新」「印文不明」「温故知新」
276		細川氏系譜	26.1×19.2	1冊	38	【第1丁右端】井上文庫、〔朱印〕「印文不明」、居元(最終頁欠損)
277		祝儀秘書 伊勢流	24.0×16.1	1冊	66	
278		馬之薬法	21.0×16.5	1冊	91	
279		本朝軍器考 九十一十二	27.0×18.0	1冊	110	(版本)【刊記】元文二年(丁巳)立春吉辰
280	1	単騎要略 披甲辨 卷之一	22.5×16.0	1冊	23	(版本)【跋】享保十四年
280	2	単騎要略 披甲辨 卷之二	22.5×16.0	1冊	22	(版本)
280	3	単騎要略 披甲辨 卷之三	22.5×16.0	1冊	21	(版本)
280	4	単騎要略 披甲辨 卷之四	22.5×16.0	1冊	20	(版本)
280	5	単騎要略 披甲辨 卷之五	22.5×16.0	1冊	30	(版本)【跋】享保二十年
281	1	老談一言集(朝倉日下部景衡聞集)	26.8×19.7	1冊	63	
281	2	駿府祿(卷之上)	26.6×19.6	1冊	22	
281	3	本朝奇跡談	26.9×19.4	1冊	17	
282	1	肥後国史略 全	—	1冊	—	(明治36年刊本)
282	2	細川氏系譜便覽	—	1冊	—	(大正11年刊本)
283	1	城築武功秘伝	26.2×19.2	1冊	7	
283	2	兵法雄冠抄北条流(自一至廿二)	23.0×16.2	1冊	96	
283	3	兵法雄冠抄北条流(自廿三至五十二)	23.0×16.2	1冊	107	
284		射御蠡測集(武田氏 弓馬太刀二冊合二)	26.6×19.6	1冊	28	【首題下】〔朱印〕「菅原正房」【奥書】慶長十五、八月六日、八十三歳、武田吸松斎清芸〔花押影〕
285		軍礼	26.5×19.8	1冊	21	【第1丁右下】〔朱印〕「高本文庫」「柏家蔵書」
286		軍神問答	26.2×19.0	1冊	7	【首題下】〔朱印〕「志水之印」「菅原正房」
287		小笠原流百々條目錄	27.3×19.1	1冊	12	【首題右】〔朱印〕「印文不明」
288		大追物記 全	26.1×18.0	1冊	101	【奥書】大永元年二月、伊勢下総守貞数(頼)入道宗五、右開書伊勢下総入道(法名宗五)自筆其儘書留置者也、応永七年二月吉日、從五位下中原豊後守(多賀)高長〔花押影〕、天明四年甲辰正月二十五日、斎藤高寿権佐〔花押〕、天保十二年七月廿三日、斎藤三郎蔵本
289		本朝弓馬要覽	23.0×16.2	1冊	113	(以下二冊合綴)(版本)【第4丁裏】天和二年齊藤主税定易著【第5丁冒頭】東武、斎藤定易彙編
		弓馬極秘書 坤	24.1×17.0	1冊	63	【奥書】弘治二年六月吉辰、(武田)信豊判、沙弥紹真(武田信豊)判
290		機制之劍十二法 武田流棒術法	—	1冊	—	(市販原稿用紙、昭和19年・22年)、【奥書】(金子)有鄰
291		平胡録几帳 鏡直垂 靈社起請文 故実拾遺 神祇道服忌令合	26.2×19.1	1冊	41	【第1丁右上】〔朱印〕「味礼」【奥書】享保十九年四月日、安田好教慶安四年九月吉日、墨斎玄可、入江惣十郎殿、進覽之、慶安三年臘月吉辰、(竹原)墨斎玄可、入江惣十郎殿
292		安多武久路 一 弓	23.6×16.8	1冊	57	(以下二冊合綴)【奥書】宝曆八年衣更着五日、〔花押〕、宝曆丙子(六年)霜月廿八日、藤原正俊、(金子)機軒有鄰蔵
		安多武久路 二 馬	23.6×16.8	1冊	52	【表紙見返】(金子)機軒有鄰蔵【奥書】于時享和三亥年四月写之
293		伊勢家故実或問 全	27.0×18.2	1冊	40	
294		故実記(目錄)	26.9×19.3	1冊	35	【奥書】慶安三年初春、竹原市蔵維成

番号	小番号	書名	法量・縦×横 (cm)	員数	紙数	備考(著述・書写・伝領等に関する記述、編者注記)
295		故実聞書	26.3×20.4	1冊	8	【奥書】志水〔朱印〕「菅原正房」
296		故実記〈かか山〉	25.5×18.9	1冊	23	
297		百人老首口伝	25.2×19.2	1冊	40	【奥書】元禄九〈丙子〉歳青和吉辰、志水氏、性知丈
298		高忠聞書〈的射之儀〉	26.4×19.2	1冊	41	【奥書】寛正五年十一月日、(多賀)豊後守高忠、永正十七年二月二日、上原豊後守高家判、右此卷、西出土夕借得而写之、于時天保六年八月二十六日□□筆染而、同九月四日畢ル、藤原昌猛
299		弁智方覚抄	26.4×19.9	1冊	5	【付箋】寛政四年五月廿五日、写之【原表紙】志水
300	1	心直通言 卷一 大坪流	25.8×18.0	1冊	99	【表紙】控原本也、居元【首題下】〔朱印〕「澤村藏書」〔澤昌厚印〕
300	2	乗馬実儀(大坪氏)	27.5×19.9	1冊	16	
301		墨跡写真(白峯道人)	—	1枚	—	(明治33年刊)
【欠】 302						
303	1	箭拵之書 下	27.2×20.3	1冊	10	【首題】〔朱印〕「印文不明」
303	2	志をりの書	27.2×20.3	1冊	5	
303	3	ふみの志たひ	27.2×20.3	1冊	18	【首題上】〔朱印〕「印文不明」【奥書】水嶋ト也之成、木頭平拾
303	4	請取後の次第	27.2×20.3	1冊	32	【首題】〔朱印〕「印文不明」
303	5	嫁入りの次第	27.2×20.3	1冊	9	【首題】〔朱印〕「印文不明」
303	6	嫁取婚入の次第	27.2×20.3	1冊	10	【首題】〔朱印〕「印文不明」
303	7	喰初の次第	27.2×20.3	1冊	13	【首題】〔朱印〕「印文不明」
303	8	酌の次第	27.2×20.3	1冊	21	【首題】〔朱印〕「印文不明」
304		倚翠庵松軒翁歌集	26.1×18.2	1冊	77	(版本)【奥書】(金子)機軒有鄰【裏表紙】平安居、機軒
305	1	詠歌大概抄	27.2×19.5	1冊	59	(版本)【首題下】〔朱印〕「学叟」「印文不明」
305	2	秀歌之躰大略	27.2×19.5	1冊	64	(版本)【首題下】〔朱印〕「学叟」「印文不明」
306		雲霞集 上中下合本 全	26.2×18.5	1冊		(虫損甚大のため展開不能)
307		当家諸礼 二〈祝言之巻 武田家〉	26.2×19.5	1冊	21	【首題下】〔朱印〕「高木文庫」「柏家藏書」
308		弓矢製法口伝書(武田小笠原)	26.9×19.3	1冊	23	【奥書】右口伝書、師之相伝之趣、恐於失亡為子孫集之置者也、丁丑三月吉日、安田玄中玄櫛〔花押〕
309		茲詮君御文章 犬射記	25.3×17.5	1冊	15	【御文章奥書】文化十三丙子孟春齋三謹拜写【犬射記首書】肥後齋藤高寿者、齋藤三郎高廣藏
310		殿中行事抜書	26.3×19.3	1冊	36	【奥書】伊東志中(祐敬)謹撰〔花押〕
311		主人貴人え礼之申様并使者二行て作法条々之覚悟次第之聞書	26.2×19.5	1冊	19	【奥書】慶安三、霜月吉辰、(竹原)墨齋玄可判、入江惣十郎殿、進献之
312	1	日置目録(居元記)	24.3×16.3	1冊	20	(市販原稿用紙)
312	2	日置彈正歌十五種	24.0×17.2	1冊	13	【首題】歌之巻 日置之十五首 彈正忠正次之歌【奥書】享保四年三月十一日、宮川由成入道夕翁在判、友田左小右衛門殿、延享三丙寅年、友田左小右衛門
312	3	日置流	25.7×18.7	1冊	23	【奥書】(竹原)惟清藏本
312	4	犬追物類鏡	26.3×18.5	1冊	58	【首題下】〔朱印〕「木塲文庫」【奥書】延享元年(甲子)九月五日、伊勢兵庫平貞丈
312	5	犬追物類鏡 一～四	27.2×19.7	1冊	46	【奥書】延享元年(甲子)九月五日、伊勢兵庫平貞丈
312	6	本朝細馬集(一巻二巻慶長まで)	26.2×18.9	1冊	41	(以下三冊合綴)【首題下】〔朱印〕「志水之印」〔菅原正房〕【奥書】右土肥經平以直筆之本写、于時安永九(庚子)歳二月念四日、山中長瓊藏書、安永九年庚子五月六日、扈從隊士伊勢平藏貞丈跋
		華陽皮相 上	27.2×18.8	1冊	24	(版本)
		華陽皮相 下	27.2×18.8	1冊	27	(版本)
【欠】 313						

番号	小番号	書名	法量・縦×横 (cm)	員数	紙数	備考(著述・書写・伝領等に関する記述、編者注記)
314		軍馬	—	1冊	—	(近代印刷物)
315		鎌倉刀剣會々報	—	1冊	—	(昭和刊本)
316		選挙原理	—	1冊	—	(明治23年刊本)
317		徳川氏新制流鎗馬	23.5×15.9	1冊	30	
318		鞍鎧家代々判鑑集	24.0×17.3	1冊	15	【第1丁右上】[朱印]「石□家書」
319		小的射法全書	26.2×19.0	1冊	37	【首題上】[朱印]「温故而知新」【奥書】[朱印]「亀田」[正容之印]
320		誕生引目〈小笠原伝〉	26.7×19.2	1冊	34	【奥書】右此一巻者小笠原長時信州御没落以後予此道尽心緒、於御側御伝授令書写畢、他家不可有類本、雖然依不淺御執心、懇記進之候、努々不可有外見者也、岩村休意重久、小笠原河内知成、上原八左衛門定宣、水嶋卜也、応永廿四曆八月十五日、小笠原備前守持長、同民部少輔持清、多賀豊後守高長、同豊後守高忠、寛正五年十月吉日、水嶋卜也
321		射術記録 全	26.5×19.0	1冊	16	【首題上】[朱印]「印文不明」【奥書】寛正五年十一月日、(多賀)豊後守高忠判、于時明応八年六月十三日、(武田)元信御判、右之巻冊当道之難為秘伝類仍御懇望令相伝訖、最可被禁泄見者也、享保三年十月下旬、伊東治郎左衛門祐敬[花押影]、安田角右衛門殿、進之候
322		義士夜討高名咄 上下	22.0×15.7	1冊	28	(以下二冊合綴)(版本)【表紙】泉岳寺藏版
		赤穂義士對話 堀伝衛門聞書	26.1×18.7	1冊	83	
323		大坪本流鞍寸之巻〈全〉	28.1×18.5	1冊	36	【首題下】[朱印]「篤敬之章」
324		大坪本流 歌枕之巻	27.5×19.7	1冊	3	【第1丁右下】[朱印]「篤敬之章」【奥書】伊藤篤敬藏
325		大坪本流 免引之巻	28.1×18.3	1冊	8	【首題下】[朱印]「篤敬之章」
326		弓矢製法秘伝〈武田流 竹原玄可記〉	25.5×19.0	1冊	7	【奥書】右之巻冊者当道之秘伝也、堅守之不可被外見者也、正保四年七月、竹原少左衛門入道玄可
327	1	御当流礼覚集 一	26.0×19.3	1冊	81	
327	2	御当流礼覚集 二	26.0×19.3	1冊	93	
327	3	御当流礼覚集 三	26.0×19.3	1冊	113	
328		犬追物口決 犬追物覚悟 犬追物矢廻日記 犬追物小日記	26.1×18.8	1冊	128	【奥書】天明四年春三月十五日、斎藤高秀識、一書、正保三年五月吉辰、武田三左衛門尉源光尚、応永九年二月吉日、中原(多賀)豊後守高長[花押影]、天明四年甲辰閏正月望、斎藤高寿藏本、宝徳元年十二月廿七日、沙弥浄元判在、右者幽斎公の御四男細川中務少輔孝之入道休斎宗也君の御本をうつすもの也
329	1	大坪流稽古心得之巻	26.0×18.8	1冊	13	【奥書】志水
329	2	大坪流秘伝書	26.5×19.4	1冊	38	【奥書】慶安二年(己丑)八月吉辰、長谷川頼也、都筑勘介殿、参
329	3	雲霞集〈上中下〉	26.5×19.5	1冊	112	【奥書】慶安貳年(己丑)八月吉日、長谷川頼也、都筑勘介殿、参

凡例：〈 〉は割注・細字、【 】は情報の記載場所、[]は朱印・花押などの判の種類、「 」は印文、()は編者の注記、をそれぞれ表す。